

テーマ: 身体表現

南長崎第一保育園(豊島区)

テーマを設定する

日ごろから身体を動かして遊ぶことが好きである。動物などになりきって表現したり、ごっこ遊びをしたりしている。

活動① アーティストワークショップ1

アーティストの真似をしたり、グループでオリジナルダンスをつくる身体あそびを行った。

環境をデザインする

●準備した物 スピーカー

探究活動を実践する

●活動内容

- ①アーティストの自己紹介ダンス
- ②アーティストのまねっこをしながら思いっきり動く
- ③音楽がとまったら、一人ひとりちがうポーズでストップ！
- ④2チームに分かれて、まねっこダンス＋オリジナルポーズのダンスを見せあう
- ⑤お互いにおもしろかったところを伝えあう
- ⑥ペアになって手のひらと手のひらを合わせたまま、立ったり、すわったり、寝転がったり、ゆっくり歩いたり...おしゃべりしないで、呼吸を合わせて集中
- ⑦4人組になって手のひらを合わせたまま、アーティストが作ったトンネルをくぐる
- ⑧2グループに分かれてオリジナルダンスをつくる。
- ⑨お互いに発表。最後によかったところを伝えあって終了

●子供たちの様子

・音楽がとまったら、“自由なポーズ”でストップ！

アーティスト／「みんなすごい！違うポーズがどんどん出てくるね！」

からだの隅々、顔の表情まで工夫いっぱいの“自分らしいこだわりポーズ”が深まっていて...

子ども／「すごい！」「わたしのポーズどうだった？」

アーティスト／「ブラボー！！」

活動スケジュール(4歳児クラス)

12活動内容		実施日	時間/回	人数/回
①	アーティストワークショップ1 講師:北川結(振付家・ダンサー)他1名	R6.10.8 (火)	60分 程度	12人
②	アーティストワークショップ2 講師:北川結(振付家・ダンサー)他2名	R6.10.11 (金)	75分 程度	13人
③	表現遊び 担任2名	R6.11.6 (金)	60分	12人



振り返りをふまえた気づき

●保育士から

- ・顔もふくめてすべてが身体表現だという気づきが保育者にもあった。
- ・元気いっぱいに動くだけでなく、ゆっくり静かに動く、友だちの表現をじっくり見るなどメリハリのある活動内容によって、子供が飽きず、疲れすぎず、参加できた。
- ・友達の発表をお互いによく見る姿があり、子ども同士、名前を出してほめられると、それぞれとてもうれしそうだった。褒め合う時間を意識的に作る大切さに気が付いた。

テーマ: 身体表現

南長崎第一保育園(豊島区)

活動② アーティストワークショップ2

ギターの生演奏を聴き、音を感じながらさまざまな身体表現あそびを行った。ミュージシャンと一対一で、即興セッションによるオリジナルダンスを披露した。

環境をデザインする

●準備した物 ギター、スピーカー

探究活動を実践する

●活動内容

- ①アーティストのまねっこをしながら動く
- ②ギターの生演奏がはじまる
- ③おもいっきり動いて、音楽が止まったら、オリジナルポーズでストップ
- ④とつぜん速くなったり、遅くなったり、止まったり。生演奏の音を聴きながら自由にダンス。
- ⑤感想を伝えあう
- ⑥輪になって座る
- ⑦一人ずつ輪の中心に出て、ギターと即興セッション
- ⑧全員がやりきって終了

●子供たちの様子

・ギターの生演奏でダンス。

アーティスト/「やさしい気持ちの動きは？」

問いかけに答えるように、寝転がったり、腕をくねらせたり...動きを探っていく。

子ども/「ここがワクワクしたよ！」

・即興ダンス、Aちゃんの番。じっと佇むAちゃんをやさしい音色が誘う。1分以上経っただろうか、手の先がわずかに動き始める。両腕をゆっくりゆっくり天へと突き上げ、頭は下へ、そして静止するAちゃんは、まるで音楽の風を浴びながら大空を飛ぶ鳥のよう。最後は地上に降り立ったかのように床をポンッと触り、やりきった表情でアーティストとハグ。この間4分ほどの美しい世界。息をのんで観ていたみんなから拍手が沸き、アーティストの目には感動の涙がうかんだ。



振り返りをふまえた気づき

●保育士から

・さまざまな身体表現あそびの中で、それぞれが自分で気づいて動きを発見していた。普段の保育では、大人にたよりがちだったり、前に出るのが苦手な面のある子どもも、1人1人即興で踊るところまでやることができた。即興の踊りには、それぞれの個性が出ていたし、ミュージシャンをよく見て、対等にコミュニケーションをとりながら表現する姿があった。

・アーティストワークショップを経て、身体の動きが大きくなり、動きのバリエーションも増えており、保育士の探究活動につながる成長を見ることができた。